専門家とナイロビ市の職員や大学 分野について、

土地利用や都市交通などの6つ

ワーキンググループで、ケニアの都市に関連する制度面のレビューを行う 渡辺専門家(左)。プロジェクトオフィスがナイロビ市役所内に設置された ことで、いつでも話し合える環境があった

プラン作 0) 焦点とな 0

なマスタープラン作りまで二人三のではなく、現状分析から具体的

方的に計画を作って引

き渡す

スタープラン提案の順で進めら状分析、開発ビジョンの提案、マ 市職員がまず描いたナイロビの将 来像だった。 積極的な参加を軸に据えた。 そのプロセス全体を通して、 東アフリカの ビ市をはじめとする現地側 プロジェクトは、 それがナイロビ 心地として魅

般住民や自治会の代表者なるは、ナイロビ市の9つの地

シップはナイロビ市

の協力の強みだ。

脚で実施する支援の姿勢は、

日本

住民と共に街をつくる

ケニアの首都というだけでな

実施だ。 ることが法律で定められて や関係者に開示して意見を収集す ぞれの環境への影響を比較評価す 定段階で複数の案を用意し、 定段階で复せっては、計画の策ラン策定にあたっては、マスタープ トとなったのは、 今回の取り組みでもう一つポイ - プラン作りの開始時期、 計画関連の情報を住民 住民説明会の クト 計画の策 ではマ いる。

時間がかかり ンを策定しましたが、 の目指すべき方向性となるビジ 策を議論。「その後、 など、どの都市にもあてはま ると、、環境にやさし ました」と渡辺さん。

らではの意見が出るようになりま るような内容になってしまうの よく歩くことから、 ンの策定を意識するように伝え ナイロビ市の特徴が出るビジ すると、 といったナイロビな 中 心街では人々 ″歩行者に

たことで、 は常に た。 当事者意識を高める一因とな 担うようになったことも、 りを目指す信頼関係が生まれたと ながらより良いマスター **%協働** を強くアピー

めの知恵が散りばめられていつ、郊外の健全な開発を目指すである中心街の問題を解消し ランには、 副都心間の交通アクセスを確保す ることで一極集中を緩和する。 こうして策定されたマスタ 郊外に副都心をつく ナイロビ市のシンボ つル

ージなどで事前に周知したこと 回の説明会で多いときには 人ほどの参加者が

ロジェクトによって引

き出された

いように整備するといった点もプ

導し、 指していることを丁寧に説明して 見据えたマスタープラン作りを目 問題への対応を求めるものが少な いました」と渡辺さんは振り返る を整備してほしいといった個別の の意見には、 本の道路だけでなく、 ムはサポ 説明会はナイロビ市の職員が主 ありませんでした。市の職員は、 渡辺さんらプロジェクト 自分の家の裏の道路 トに徹した。 街全体を 「住民

と描いた青写真は一歩ずつ実現に

に日々現場を駆け回ってい

る。

渡辺さんがナイロビ市

調整などのため、

の職員と一

ロビ市役所に常駐し、

優先プロジ

の詳細検討や関係機関との

門家として長谷川真紀さんがナイ つつある。今年4月からは長期専

さまざまな事業が動き出

ンにの

築に苦戦したが、プロジェクトで当初は、市の職員らとの関係構 12年にケニアで地方分権法 互いに意見を持ち寄り 自治体が都市計画を - プラン作 ルし

イーストランズ開発事業 レイルウェイシティ開発 新規埋立処分場の整備 モノレール環状線 幹線道路の拡幅

プロジェクトで設定したナイロビ市の都市開発の ビジョンは、"地域の統合と持続可能な開発に向 けた象徴的でグローバルに魅力的な都市"。国 の開発方針も踏まえた事業が進められている



ナイロビ市職員と住宅地域の拡大状況を確認する 長谷川専門家。この地域は川沿いで、過去には洪 水が発生している。川から一定の距離をとって建 物を建設する必要があることなどを確認し合った

営株式会社開発計画部の渡辺昭

総括を務めた。それ以前にも、定プロジェクトの専門家として 市・地域開発プロジェクトを支援 ン した経験を持つ。 やベトナムなどで都 た。それ以前にも、イトの専門家として副

処理のためのインフラが不足して

あらゆる問題が起きて

渋滞が発生したり、

上水や廃棄物

無秩序な都市の拡大が進んで交通

れてこなかったんです。

そのため、

973年以来、

都市計画が更新さ

算や制度もなかったことから、

要であるという認識が低く、

「ナイロビ市では都市計画が

陰でさまざまな問題が生じてたナイロビだが、急速な都市

東アフリカの

最大都市に成長

心的役割も担ってい

る。

政機関の一極集中が原因で、たのは道路だった。商業地域ナイロビで特に問題となっ 街に重度の交通渋滞が生じていた 商業地域や行

利害関係者に向けて開かれた説明会の会場とマスタープランのポスター。市民への説明会 では、多くの人が興味深げにパネルに目を通し、ナイロビ市職員の説明に耳を傾けた

ナイロビは周辺諸国

際空港であるジョモ・ケニヤッ

園が広がる。

西側は、

住宅街の中

キリンなどが生息する国立公

南側にはライオンやシマウ

ルなどが集まる街並みが

に商業施設が点在して

港であるジョ:、東アフリカ地域で最大の国、東アフリカ地域で最大の国

C. KAYOLE II COMMUNITY From Kenya

一極集中の解消が焦点にビジネスと野生動物の街

京都のおよそ3分の

1の面積に約

万人が暮ら

ケニアの首都ナイ

が であるモンバサ港や隣国へとつないた。さらに、その道路は国際港による東西の行き来を困難にして 道路が街を東西に分断し、のだ。また、市の中央を世 いるため、 心街に乗用車

中央を貫く幹線 自動車

東アフリカ最大都市の未来を描く

ケニアの首都ナイロビ市は、近代都市と大自然を持ち、ビジネスと観光の両面で 世界中から人々を集めている。しかし、都市機能の一極集中や無秩序な開発により さまざまな問題を抱えていた。ナイロビ市が目指すべき将来のかたちとは――。 日本が支援する市のマスタープラン作りを追った。 ナイロビ市の中心にある 公園。 奥には、ビルの立 ち並ぶ中心街が見える。 ナイロビ市のシンボルで あり、誇りでもある